



## 2/23 みんなでつかみ取った銀メダル ～スペシャルオリンピックス準優勝 報告～



▶左から宮さん、荒尾ラン子代表、田島さん、高木さん、岡崎さん、江崎さん

新潟県で行われた知的障害者のスポーツの祭典「スペシャルオリンピックス」のフロアホッケーで銀メダルに輝いた県代表チームが市役所を訪れ、山下市長に報告しました。チームに所属する16人のうち、宮由紀さん（玉山市）、高木健次さん（桜山）、岡崎智幸さん（増永）、江崎勇さん（唐池）が訪問。主将の高木さんは「2位で悔しいですが、みんなで決勝まで進めて、うれしかったです。私たちが活躍することで、障害のある人たちが元気になってもらえたら」と笑顔を見せていました。

## 2/25 誰もが安心して暮らせるまちへ ～災害ボランティアセンター設置協定 締結～



▶協定書に調印する坂井会長と山下市長（左から）。坂井会長は2月26日付で退任

市はボランティア活動を行う団体や個人を支援する「災害ボランティアセンターの設置及び運営に関する協定」を（福）市社会福祉協議会と締結。市役所で調印式を行い、ボランティアの受け入れ体制の確保や救援活動で連携することを確認しました。同協議会の坂井誠子会長（原万田）は「災害時、協議会で受け入れたボランティアを円滑に送り出し、市と一体となって復旧に取り組んでいきます」と力強く話していました。

## 2/27 気持ちの伝え合い方を学ぶ ～市民活動支援講座～



▶参加者に会話のこつを伝える平野さん（左）

市民活動支援講座「すぐに使えて役に立つ！コミュニケーション能力UP講座」を文化センターで開催しました。20人が参加し、ワークショップ形式で会話のこつを学びました。講師を務めたメンタルトレーナーの平野いずみさんは「コミュニケーションとは気持ちを伝え合うもので、相手が気持ち良く思えるような伝え方をすると、円滑なやりとりができる」とアドバイス。参加者は「相手を理解することの大切さを学びました」と話していました。

## 3/1 遊休農地を生かして交流 ～海行原ふるさと愛好会農林水産大臣賞受賞～



▶6年前に同会を立ち上げ、幼なじみなど15人で活動しています かいこぼる

海行原ふるさと愛好会は農林漁村女性・シニア活動表彰のシニア起業・地域活性化部門で最優秀賞である農林水産大臣賞を受賞しました。遊休農地の解消や、同会が育てた玉ネギを消費者が収穫する交流型の体験イベントなどの取り組みが評価されました。同会の川上祥一事務局長（樺上）は「受賞を励みに活動の幅を広げて、イベント内容を充実させたいです。多くの人に訪れてもらい、自然と触れ合ってほしいですね」と意気込んでいました。

## 寿 ご長寿 おめでとうございます



猿渡孝さん（原）

2月8日に100歳の誕生日を迎えられました。将棋と庭いじりが趣味だったそうです。以前は銃剣術も行っていました。昔は炭鉱で仕事をしていて、お酒やたばこは飲まず、真面目で仕事一筋な性格でした。長寿の秘けつは「考えすぎないこととよく食べること」と話していました。



岡本イツメさん（大島下）

3月15日に100歳の誕生日を迎えられました。手先が器用な岡本さんは人形の洋服を作ったり、編み物をしたりするのが好きでした。家族旅行をいつも楽しみにしていたそうです。「兄弟にも100歳の誕生日を迎えた人がいるので、長寿の家系」とのことでした。

## 3/3 循環型社会への新しい取り組み ～(株)グリーン発酵九州 竣工式～



▶完成した工場の内部。建築面積は2haほど

(株)グリーン発酵九州熊本工場は、有機肥料を製造する工場を大島に建設し、竣工式を行いました。有機肥料は家庭から出る下水汚泥を原料としており、工場では一日に300tほどの汚泥を処理できます。製造された有機肥料はグループ会社の農業生産法人ミノリにより、市内の遊休農地で米やタマネギの栽培に利用されます。汚泥を農業に活用するリサイクル施設は県内初です。4月から本格的に稼働を開始し、25人が新たに地元から雇用されます。

## 3/5～8 学びの成果が花開く ～中央公民館まつり～



▶声高らかに詩吟を吟じる自主グループ生

中央公民館と働く女性の家で中央公民館まつりは開催されました。ダンスや楽器演奏などのステージ発表、お茶会や囲碁などが行われたほか、館内中に作品が展示されました。4日間で延べ1,350人が訪れ、中央公民館で活動する自主グループ生などの活動成果を楽しみました。料理バザーでぜんざいを作った小学生は「母が料理サークルに通っているので、手伝いに来ました。お客さんがおいしいと喜んでくれたので、うれしかったです」と話していました。